

# 妊産婦死亡剖検例304例についての集計

弘前大学医学部産婦人科

品川 信 良

## 研究目的・研究方法

昭和52~55年の4年間における青森県下の妊産婦死亡例27例中13例について、臨床経過剖検所見などを詳しく調べるとともに、主として病理解剖関係の機関から蒐集した妊産婦死亡剖検例について、引き続き調査を継続した。得られた成績は次の如くであった。

## 研究結果と考察

### I. 青森県の妊産婦死亡例について(表1)

1. 死亡届に記された診断名と、最終診断(剖検診断)とを対比してみたところ、13例中6例については一致していた。残りの7例については、いずれも臨床診断が原因不明の急死であったため、剖検された1例を除き、残りの6例には明確な診断名が付けられないまま、羊水栓塞症疑、心不全、妊娠中毒症などの臨床診断の死亡届が発行されていた。

2. 原因不明の急死例6例のうちの4例には、プロスタグランディンE<sub>2</sub>カプセル、アトニオン0、などの子宮収縮剤が使用されていた。

3. 13例中11例は、医療施設の勤務時間外の死亡であった。

4. 剖検施行例は13例中3例(23.1%)、社会的に問題があったと思われる症例が2例(助産所分娩、高校生の外妊破裂、各1例)あった。

5. これらの死亡例を通じて、死亡原因を究明するための努力、例えば屍体解剖への努力が、十分払われていたとはいえないような印象をうけた。わが国の社会には、妊産婦死亡などのさいには、屍体解剖を妨げる因子が、まだいろいろあるようである。

### II 妊産婦死亡剖検例について

昭和56年には、新たに41例の妊産婦死亡の剖検例が蒐集された。その内訳は、

出血	5例
妊娠中毒症	7例

産褥熱・敗血症	4例
子宮外妊娠	4例
急性黄色肝萎縮	4例
羊水栓塞症	6例
間接死亡	3例
非関連死亡	8例、であった。

その結果、総蒐集数は304例に達した。その詳細は表2に示す通りである。

### 1. 臨床診断と剖検診断

剖検診断に、臨床診断が合致していたかどうか検討してみた。304例中双方が一致していた症例は169例で全体の55.6%にしかすぎなかった。各年次によって差は認められたが、毎年一致率は少しずつ上昇しており、昭和50年から54年までの症例についての一致率は、116例中74例で、63.8%であった。

剖検診断別に検討してみると、一致率の低いものは、子宮破裂25.0%(20例中5例)、子宮外妊娠破裂20.0%(30例中6例)、産褥熱・敗血症45.2%(31例中14例)、羊水栓塞症40.0%(15例中6例)、間接死因になるが、剝離性大動脈瘤破裂16.7%(6例中1例)などであった。

逆に、一致率の高いものは、臨床経過の長い、妊娠中毒症88.1%(42例中37例)、急性黄色肝萎縮94.4%(18例中17例)、及び、外性器出血を認めることが多い常位胎盤早期剝離83.3%(12例中10例)、弛緩出血100%(13例中13例)などであった。

### 2. 突然死の症例について

容態の悪化後ほぼ6時間以内に死亡した、「突然死」の症例が、304例中に84例(27.6%)含まれていた。そのうちの74例(88%)は直接死因によるもの、9例(11%)は間接死因によるもの、1例(1%)は非関連死因によるものであった。

### 3. 突然死の症例の診断一致率

臨床診断と、剖検診断との一致の程度を検討し

てみたところ、84例中33例(39.3%)しか一致していなかった。臨床経過が短いためか、急変の原因が判然としないうちに死亡してしまう症例が多いようであった。

4. 羊水栓塞症による死亡例について(表3)  
直接死因による突然死74例の調査で、特に注目されたことは、近年、羊水栓塞症によると思われるものが増加しつつあることである。

日本病理剖検輯報に集(輯)録されている羊水栓塞症の症例は、昭和40~44年の5年間には0例、45~49年には6例、50~54年には14例と、急速に増加の傾向を示していた。私たちは、そのうちの15例について詳しく検討することができた。

15例中8例には、陣痛誘発の目的で、オキシトシン、プロスタグランジンなど、各種の子宮

収縮剤が用いられていた。他に、吸引分娩例が4例、帝王切開術施行例、前回帝切施行例が各々1例ずつあった。

また、急変の時期は、分娩中7例、分娩直後6例、妊娠中、帝王切開術施行中が各々1例ずつであった。

急変から死亡までの経過時間は、30分以内3例、30分から3時間が6例、3時間以上が6例であった。

羊水栓塞症の治療としてヘパリン使用が考えられるが、ヘパリンを投与しても無効で死亡した症例も1例認められた。

なお、内容の一部は、第8回国際薬理学会(1981・7、東京)においてDrugs and maternal death in Japanとして発表した。

表 1 青森県の妊産婦死亡例 (昭和 52~55)

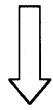
氏名	死亡年月	年齢	経産歴	週数	最終(剖検)診断	死亡届の診断名	臨床経過	剖検	備考
1	52・4	28	2-1	38	子宮破裂	→	2hr	○	死産・前回帯切
2	52・5	34	3-3	38	原因不明の急死	産科ショック, 羊水栓塞	6hr	×	PGE, フジ- 7トニン0
3	52・10	33	4-2	43	原因不明の急死	産科ショック, 脳血栓症疑	2hr30m	×	
4	53・1	34	1-1	36	常位胎盤早期剝離, DIC	→	1hr20m	×	
5	53・2	31	-2	40	常位胎盤早期剝離	→	3hr25m	×	助産所分娩
6	53・4	27	0-0	38	原因不明の産科ショック	心不全, 弛緩出血	1hr58m	×	
7	53・9	29	0-0	40	原因不明の非出血性 ショック	羊水栓塞症	25m	×	PEG, 7トニン0
8	54・1	35	1-1	39	気道内吸引窒息死 ショック	羊水栓塞症	2hr	○	死産
9	54・7	32	3-2	11	左卵管間質部妊娠破裂	→	8hr	×	開腹手術施行
10	54・8	32	3-2	40	原因不明の急死	羊水栓塞症	2hr	×	死産
11	54・4	25	0-0	42	帯切後原因不明の ショック死	妊娠中毒症	3hr	×	
12	55・8	18	0-0	8	右卵管妊娠破裂	→	8hr	×	高校生, 13日前 D&C
13	55・9	24	1-1	34	急性肝萎縮	→	7days	○	

表2 妊産婦死亡剖検例304例の主なる剖検診断

<u>直接死亡</u>	231 例 (100%)
出血	67 (29.0)
妊娠中毒症	42 (18.2)
産褥熱・敗血症	31 (13.4)
子宮外妊娠破裂	30 (13.0)
羊水栓塞症	15 (6.5)
黄色肝萎縮症	8 (7.8)
その他	3 (1.3)
原因不明の急死(頓死)	25 (10.8)
-----	
<u>間接死亡</u>	41 例
くも膜下出血	12
先天性心疾患	8
解離性大動脈瘤破裂	6
後天性心疾患	4
原発性心筋症	4
その他	7
-----	
<u>非関連死亡(他疾患死亡)</u>	32 例
急性骨髄性白血病	6
胃 癌	4
そ の 他	22

表3 羊水栓塞症の症例（剖検施行例）

死亡年	年齢	経産	分娩様式	発症の時期	臨床診断	投与薬剤	経過時間	出所	輯報巻数	備考
1968	34	2-2	39 経産	陣痛誘導中	原因不明のシヨック死 急性心不全	テリパリン オキシトシン	2hr	横浜市大	11巻	
1970	31	0-0	38 経産	陣痛誘導中	羊水栓塞症	テリパリン オキシトシン	10min	金沢大	13巻	CPD 高年初産
1971	20	?	41 経産(吸引)	分娩直後	シヨック, 子宮内膜炎	オキシトシン	32hr	新潟大	14巻	臍脱
1971	24	?	31 (未分娩)	妊娠中	妊娠8カ月 原因不明の急死		数分	新潟大	14巻	
1972	28	0-0	40 経産(吸引)	分娩1時間後	羊水栓塞症		3hr	東北大	15巻	
1973	28	2-1	40 経産(吸引)	分娩中	原因不明の急死		瞬時	秋田日赤	16巻	前回帝切
1973	35	3-3	41 経産	分娩直後	原因不明のシヨック 羊水感染疑		2hr30min	札幌医大	17巻	
1974	37	1-1	40 経産	分娩中	心不全 原因不明の急死		2hr	新潟大	17巻	
1975	28	0-0	40 経産	陣痛誘導中	羊水栓塞症	オキシトシン	4hr30min	東北大	18巻	
1975	39	0-0	39 経産	陣痛誘導中	羊水栓塞症	オキシトシン PGF <sub>2</sub> α	3hr	船橋中央病	18巻	高年初産 死胎4500g
1975	24	1-0	39 帝王切開	術中急変	原因不明の急死 羊水感染疑		4hr	札幌医大	18巻	双胎
1976	31	2-2	39 経産	分娩直後	羊水栓塞症, DIC	ヘパリン 3万単位	36hr	東京鉄道病	19巻	出血10000ml 子宮全摘術
1976	26	1-1	39 経産(吸引)	分娩後	原因不明の急死, 子癇疑		3hr	埼玉医大	19巻	
1978	23	0	42 経産	陣痛誘導中	羊水栓塞症	オキシトシン, PGE ヘパリン	5hr	松下病院	21巻	熱発
1979	30	3-2	41 経産	分娩後	分娩後シヨック	PGF <sub>2</sub> , フトニン	4hr15min	市立病院	22巻	



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



### 研究目的・研究方法

昭和 52～55 年の 4 年間における青森県下の妊産婦死亡例 27 例中 13 例について、臨床経過剖検所見などを詳しく調べるとともに、主として病理解剖関係の機関から蒐集した妊産婦死亡剖検例について、引き続き調査を継続した。得られた成績は次の如くであった。